

# 読

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

# 響

わたしが私に変わる時。

常任指揮者 **セバスティアン・ヴァイグレ**

ベルリン・フィル、METなどで活躍するドイツの名匠

チェロ **ダニエル・ミュラー＝シュット**

欧米の名門楽団と共演する世界的チェリスト

**ジークフリート・マトウス: 怒り狂う女**

(Furien-Furioso) (日本初演)

**ショスタコーヴィチ: チェロ協奏曲第1番**

変ホ長調 作品107

**ルディ・シュテファン: 交響的樂章**

(1910年) (日本初演)

**R.シュトラウス: 交響詩「死と変容」**

作品24

読売日本交響楽団 第660回 定期演奏会

2026 7.14 (火) 19:00 **サントリーホール**

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C ¥5,000

**読響チケットセンター 0570-00-4390**

(10時-18時・年中無休)

YNSO Subscription Concert No. 660 / Tue. 14 Jul. 2026, 19:00 Suntory Hall

Principal Conductor **SEBASTIAN WEIGLE** / Cello **DANIEL MÜLLER-SCHOTT**

**MATTHUS: Furien-Furioso** (Japan Premiere)

**SHOSTAKOVICH: Cello Concerto No. 1** in E flat major, op. 107

**STEPHAN: Symphonischer Satz für Orchester** (1910) (Japan Premiere)

**R. STRAUSS: Tod und Verklärung**, op. 24

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文部科学省文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: アフラック生命保険株式会社



常任指揮者  
セバスティアン・ヴァイグレ

# 名匠ヴァイグレが聴かせる 知られざる名曲への旅

## 入魂のタクトでよみがえる 夭折の天才シュテファン

セバスティアン・ヴァイグレは今回、私たちを「知られざる音楽史をめぐる旅」に連れて行ってくれる。常任指揮者(プリンシパル・コンダクター)は優秀なツアーコンダクター(添乗員)に変身するのだ。主な行き先は母国ドイツの知られざる作曲家、ルディ・シュテファンの「交響的楽章」とジークフリート・マトゥスの「怒り狂う女」。共に日本初演となる。

シュテファンはアルバン・ベルクやフルトヴェングラーと同世代で、20世紀初頭のドイツ音楽界を担う若手として将来を嘱望されたが、第1次世界大戦でわずか28歳にして非業の死を遂げた。かつてベルリン国立歌劇場のホルン奏者だった時にその作品に魅了され、2022年にシュテファンの「管弦楽のための音楽」を読響で指揮したヴァイグレは、「交響的楽章」について「オーケストラの豊かな色彩感と大胆なハーモニーが特徴的で、後期ロマン派の表現の豊かさと印象派の響きの柔らかさが融合されている」と激賞する。リヒャルト・シュトラウスの交響詩「死と変容」とあわせて聴くことで、シュテファンの音楽の独創性がいっそう明らかになるだろう。

第2次大戦後に旧東ドイツで活躍したマトゥスは、多くのオペラや管弦楽曲、協奏曲を残した。その音楽は同郷のヴァイグレにとって身近なものだ。「怒り狂う女」は、古代の復讐の女神たちを皮肉と批判を込めて描いた短い曲で、コンサートのオープニングにふさわしい。「作曲家は荒々しい怒りを人間の寓話として表現している」と語るヴァイグレは、「最後には魔女や怒りの女神たちが追い払われ、愛すべき人たちが再び出会えるよう願いを込めて終わる。美しいと思いませんか?」と問いかける。

アイロニカルな雰囲気は、次のショスタコーヴィチのチェロ協奏曲第1番に引き継がれる。独奏者のダニエル・ミュラー=ショットとともに、ヴァイグレはホスピタリティーあふれる案内役を務めてくれるに違いない。



チェロ  
ダニエル・ミュラー=ショット

©Uwe Arens



2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。1961年ベルリン生まれ。82年にベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者となった後、巨匠パレンボイムの勧めで指揮者へ転身。2003年には雑誌「オーブンヴェルト」の年間最優秀指揮者を受賞。04年から09年までリセウ大劇場の音楽総監督を、08年から23年夏までフランクフルト歌劇場の音楽総監督として手腕を発揮した。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ドホステン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、ウィーン響などで活躍。24年には読響の欧州ツアーを成功に導いた。

©Peter Adamik



©Uwe Arens

豊かな表現力と驚異的なテクニックで人気を博す世界的チェリスト。H.シフ、S.イッサーリスらに師事。若くから頭角を現し、これまでにベルリン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ニューヨーク・フィル、ポストン響、クリーヴランド管、シカゴ響など世界の名門楽団と共演。近年はA.パッパー指揮、ロンドン響と共演したほか、カーネギーホールで演奏するなど活躍を続ける。バロックから現代までの幅広いレパートリーに加え、自身による編曲や現代作曲家とコラボレーションし、チェロのレパートリーの拡充にも取り組んでいる。使用楽器は、1727年マッテオ・ゴフリアー作「エクス・シャピロ」。

読売日本交響楽団 第660回 定期演奏会

2026年7月14日(火) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C ¥5,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>